

令和3年度 学校評価シート

学校名：	古佐田丘中学校	学校長名：	井筒正文
------	---------	-------	------

めざす学校像 育てたい生徒像	個人の尊厳を重んじ、真理と平和を希求する創造性豊かな人間の育成を目指し、生徒の持っている特性を最大限伸ばし、健康な心と体を育て、たくましく生き抜くことのできる力と新しい文化の創造に寄与する力を育成する。
本年度の重点目標 (学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する)	<p>1 自ら考え、自ら学ぶ主体的な学習態度を身につけ、わかる授業を通して、確かな学力の定着を図る。</p> <p>2 コミュニティスクールとして、地域と連携して国際理解教育やふるさと教育等の探究的な学習活動に取り組み、生徒の実践力と学びに向かう力を育む。</p> <p>3 仲間づくりを基本に人間関係を構築して学校生活を豊かにするとともに、社会における自らの役割や将来の生き方・在り方について考えさせ、キャリア形成能力を育成する。</p>

中期的な目標	<p>1 地域を元気にする豊かな「学び」・「スポーツ・文化」のある学校として、内容を一層充実し、地域に学校の活力や魅力を発信する。</p> <p>2 自己の在り方生き方を考え、自ら学び、自ら鍛えて、未来を切り開いていこうとする意欲ある生徒を育成する。</p> <p>3 多様な価値観を認め、多様な人と協働して、新たな価値を創造する活動に取り組む生徒を育成する。</p>
学校評価の結果と改善方策の公表の方法	・ホームページ等を利用して公表する。

達成度	A	十分に達成した。(80%以上)
	B	概ね達成した。(60%以上)
	C	あまり十分でない。(40%以上)
	D	不十分である。

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。
 4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自己評価					年度評価 (令和4年3月15日現在)		
重点目標					年度評価 (令和4年3月15日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的取組	評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善方策
1	生徒は、日々の学習にまじめに取り組んでいる。もう一段階伸びようとする意欲や積極性をはぐくむためにも、チームで学習に取り組む生徒集団を作る必要がある。	生徒の主体的で対話的な深い学びが進められる授業改善。	主体的な学びの実現に向けた授業改善に取り組む。	興味関心を高める工夫と学習活動の振り返りを行う授業改善の実施	・ICTを活用した授業改善に取り組む教員が増加した。 ・管理職・分掌長が講師となり、若手教員研修を5回開催した。服務規律を意識するようになった。 ・班の構成や距離を工夫しながら、対話し協働して取り組む場面が見られた。	B	・ICT教材の内容の検討が必要である。ICT教材を改善し、効果的な授業を目指す。 ・機会ある度に服務規律の遵守を指導する。 ・生徒同士が協働し、コミュニケーションを高めていく指導が必要である。
			若手教員育成のための研修を実施する。	若手教員の指導力が向上したか。			
			課題に対して、チームで取り組む学習を充実させる。	生徒が協働して取り組み、成果を挙げることができたか。			
2	道徳の授業や地域のボランティア活動をとおして、生徒が道徳性を身につけ、地域に愛着や誇りを持てる取組を推進する。	道徳の授業やSDGsの目標に沿った地域と連携した活動の充実 探究的な学習を通じた「学びに向かう力」の育成	・道徳教育の充実。「希望へのかけはし」を活用し、地域に密着した教材を提供する。 ・地域の特色や活動に、課題意識をもって探究する機会を充実させる。 ・新型コロナウイルス感染症に関して社会で起こっている問題を捉え解決方法を考える。	・道徳的实践に結びつけることができたか。 ・SDGsの目標を意識して学習テーマを深めることができたか。 ・感染症等による人権侵害について考え、解決方法を提案できたか。	・「希望へのかけはし」を活用したが、道徳的な実践に十分結びついていない。 ・自らの課題を模索、選択し、SDGsの目標と照らし合わせてテーマを深めている授業実践が多く見られた。 ・意識して感染症対策を行い、人権に配慮した行動ができた。	B	・身の回りの課題をSDGsと関連づけて考える機会は提供できたので、課題解決を考える内容も取り扱いたい。 ・コロナ禍でもできるボランティア活動の場を考え、提供していきたい。 ・感染症対策と人権に配慮した行動の継続が必要である。
			職場体験活動の実施	職場体験で働く意義を考えられたか。			
3	学校生活に積極的に参加し、仲間意識が育まれている。夢や希望を持ち、その実現に向けて、キャリア形成を図る必要がある。生徒は、多様な個性を有しており、個々の個性に応じた指導を行う必要がある。	生徒が主体的に取り組む学級活動や生徒会活動、職場体験活動	仲間とともに学校生活を豊かにする取組を充実させる。	生徒が企画し、学級、学校をよくする取組ができたか。	・コロナ禍のため、職業体験は実施できなかったが、農業収穫体験を実施できた。食を考える良い機会となった。 ・文化祭は中止となったが、生徒会が高校生徒会と協力しながら、企画していく力が身についた。	A	・実体験が経験できる機会を提供する。 ・職業体験ができない場合、保護者や地域の社会人を招聘することも考えたい。 ・多様な生徒へのきめ細やかな指導を引き続き行う必要がある。

学校関係者評価	
令和4年1月～2月実施	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> ・授業は、20名の少人数で活発である。教員も個に応じた指導を行っている。また、PCを授業で活用することで、より効果的に学習を実践している。 ・ふるさと学習では、調べたことをパワーポイントにまとめ、発表まで行っていることに驚いた。 ・コロナ禍の厳しい状況で、工夫しながら教育活動を低下させず、努力されている。今後も引き続きお願いしたい。 ・ボランティア活動は、小中高の縦のつながりができ、心の輪を広げられるので、早く通常の形態に戻ってほしい。 ・オンラインを活用した海外との交流は、生徒の良い刺激となり、今後も続けてほしい。 ・学校での様子を見る機会がないので、HPにもっと情報を載せてほしい。 	